

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2006年10月下旬から12月上旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 10月下旬～11月上旬は、低位水準で減少を続ける。11月中旬には断続的となり、ほぼ終漁となる。
 (2) 漁場: 10月下旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖が漁場となる。落石～釧路沖の漁場は、11月上旬以降消滅し、11月上旬～中旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 10月下旬は高位水準で推移する。11月上旬からゆるやかに減少し、11月下旬以降は低位水準になる。
 (2) 漁場: 10月下旬は宮古～気仙沼沖が主漁場となり、金華山沖にも散発的ながら漁場ができる。11月上旬は、金華山沖の漁場も持続する。11月中旬以降は、南部が主漁場となる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月下旬は、低位水準ながらも本格的な来遊がある。来遊量は徐々に増加し、11月中旬～下旬は中位水準となる。12月上旬から減少して低位水準になる。
 (2) 漁場: 10月下旬～11月上旬は、常磐北部が主漁場となる。11月中旬には、鹿島灘まで漁場が広がる。12月上旬は、鹿島灘が主漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	低位減少	断続的		
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	襟裳岬沖	襟裳岬沖		
三陸海域	来遊量					
	動向	高位水準	中位減少	中位減少	低位減少	低位水準
	漁 場	宮古～気仙沼沖・金華山沖	宮古～金華山沖	南部	南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向	低位水準	低位増加	中位水準	中位水準	低位減少
	漁 場	北部	北部	北部～鹿島灘	北部～鹿島灘	鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(10月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を下回ったものの、9月下旬を上回り、高位水準となった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は、期前半に増加して、持続した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南沖、霧多布南～釧路南沖であった。また襟裳岬南沖でも散発的に漁場ができた。

落石南沖の25～40海里付近(表面水温10～14℃)では、1～5日夜と9日夜に小型船が20～60隻操業した。また大型船数隻が操業した日もあった。小型船は連日満船となり、大型船は70～100トン以上程度漁獲した。

霧多布南～釧路南東沖の25～60海里付近(表面水温10～17℃)では、連日小型船多数と大型船数隻操業した。小型船は満船となり、大型船は60～100トン程度漁獲した。

襟裳岬南南東沖の30～40海里付近(表面水温17～18℃)では、4～5日夜に大型船が5～十数隻操業した。漁獲量は40～100トン程度と船間差が大きかった。

襟裳岬南65海里付近の表面水温17℃では、2日夜に大型船が数隻操業した。漁獲量は10トン程度と少なかった。

(3) 魚体

30～31cmモードの大型魚と25～27cmモードの中型魚主体。中型魚以下の魚の混じり具合は、場所や日によって大きく異なり、2～8割程度であった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を上回り、また9月下旬も上回り、中位水準となった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は、期後半に増加した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、宮古～大船渡沖であった。

宮古東～大船渡東沖の30～60海里付近(表面水温14～16℃)では、9～10日夜に大型船が20隻程度操業した。漁獲量は20～95トン程度と船間差が大きかった。

(3) 魚体

29～31cmモードの大型魚主体。